

フォローアップ研修を実施

～和歌山県立紀伊風土記の丘と藤白神社を巡る～

歴史サークル

2025年12月5日（金）

40名が参加

和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市）は和歌山県で唯一の特別史跡（1952年）である岩橋（いわせ）千塚古墳群の史跡を保全・公開することを目的に1971年に開設されました。同古墳群は、標高150m・約65ヘクタール（甲子園球場17個分）の丘陵地に、4世紀終わりから7世紀までの古墳時代に造られた円墳、方墳、前方後円墳などが園内に約500基あり、周辺地域を含むと900基を数えます。

玄関に到着して目に入るのがクスノキの巨木です。

全国には現在、国指定の特別史跡が63か所あり、群集墳では埼玉古墳群（埼玉県）、西都原古墳群（宮崎県）の3か所のみです。和歌山県に1件だけ指定されている岩橋千塚古墳群が規模とバラエティーで他をしのいでいます。



「竪穴式石室」

2011年の紀伊半島大水害時に紀ノ川で偶然に発見されたもので、古墳時代末期の西暦約700年頃に伐られ、樹齢350年ぐらいと推定されています。



古墳時代のクスノキの巨木。

れています。

健脚コースは、3名のガイドの案内で丘陵地に点在する古墳群をめぐりました。勾配のきつい山道を登る感じでした。

まず、公開されている前山A地区古墳エリア（約5～6世紀）に向かい、埋葬形態が竪



「箱式石棺」

穴式石室を有する方墳▽数枚の板状の石を箱型に組み合わせた「箱式石棺」の方墳▽ガラス越しに上から石室の様子を見ることができる「T字形横穴式石室」の円墳を見学しました。死者を祀る玄室と通路である「羨道（せんどう）」が「T」字形をしている、同古墳群では珍しい構造をした円墳など、埋葬形態がバラエティーに富んだ小規模古墳が盛り沢山でした。石室からは新羅系の陶質土器やガラス・水晶玉、馬具などが出土しており、朝鮮半島など大陸との関係がうかがえます。



「T字形横穴式石室」

穴式石室を有する方墳▽数枚の板状の石を箱型に組み合わせた「箱式石棺」の方墳▽ガラス越しに上から石室の様子を見ることができる「T字形横穴式石室」の円墳を見学しました。死者を祀る玄室と通路である「羨道（せんどう）」が「T」字形をしている、同古墳群では珍しい構造をした円墳など、埋葬形態がバラエティーに富んだ小規模古墳が盛り沢山でした。石室からは新羅系の陶質土器やガラス・水晶玉、馬具などが出土しており、朝鮮半島など大陸との関係がうかがえます。



岩橋型横穴式石室の特徴である高い天井、石棚と石梁

横穴式古墳は、形態が全国では珍しい「岩橋型横穴式石室」（6世紀末）で、紀ノ川南岸で採掘された緑色片岩（結晶片岩）という薄く板状に加工した石を壁などに何重にも積み上げて空間を囲っていました。石室の規模は、天井が高くなっており、太い石棚と石梁が横に組まれていました。なぜ、そうになっているのかは「木製の舟を模した、壁面を支える構造材など色々な説があるが、考古学的には謎」ということでした。「飛鳥地域の古墳の特徴である、凝灰岩の切石や、石英閃緑岩の自然石をアーチ状に積み上げた飛鳥の古墳とは違う」と参加者は感想を述べていました。

古墳のあるエリアは坂道の勾配がきつかったですが、日頃の歴史ガイドで鍛えた健脚が十分に発揮されました。

標高約140mの高台には展望台があり、和泉山脈を背景にゆったりと流れる紀ノ川に沿って広がる平野が一望でした。



展望台から紀ノ川一帯に広がる平野を望む。背景には和泉山脈がみえる。

将軍塚古墳 羨道がトンネル状になっている将軍塚古墳は、標高約140mの高台に築造された前方後円墳（墳長42m、6世紀後半）で古墳群の中で最大級の「岩橋型横穴式石室」を有しています。羨道（せんだう）の入口から石室までトンネルのようになっています。奥の石室は奥行3・3m×幅2・2m×高さ4・3mと一般的な円墳よりひと回り大きくなっています。被葬者は、紀ノ川一帯を治めた古代の大豪族・紀氏（きうじ・きし）とみられ、前方後円墳はヤマト王権との関係があった首長クラスではないかと考えられています。古墳時代、紀伊水門（きのみなと）からの水運を通じ、紀伊氏とヤマト王権とのつながりや、瀬戸内海・九州・朝鮮半島を結び、アジア大陸とつながる海運



竪穴住居内に復元された古墳時代の「かまど」。調理用土器をのせて煮炊きの実演も実施されている。



前方後円墳丘上の形象埴輪群と新羅系土器

ルートを通して国際的な交流が頻繁に行われてい

たことを裏付ける馬具、金属製の武器、朝鮮半島製の土器、装身具などの出土物が展示されています。

敷地には、古墳以外にも見どころが沢山ありました。竖穴掘立て柱の茅葺住居で、古墳群が造られた6世紀頃の民家を、発掘された竖穴住居をもとに復元したものです。中には古墳時代の「かまど」が再現され、実際に土器を使って煮炊きの実演も行われています。室内の資料館には、古墳群を代表する特



前方後円墳の造り出しなどから出土した埴輪の模型が屋外のあちこちに展示されています

徴的な埴輪や土器、玉類などの副葬品が展示されています。全長約105mの県内最大級

の前方後円墳「大日山35号墳」の造り出し（祭祀場）から出土した国内で唯一の出土例「両面人物埴輪」と「翼を広げた鳥型埴輪」（重要文化財）などです。この他、江戸時代の移築古民家（重要文化財）もあります。また、万葉集に詠まれた草花の万葉植物園があり、万葉歌碑も建立されています。

国内で唯一の出土例「両面人物埴輪」と「翼を広げた鳥型埴輪」



紀伊風土記の丘で記念写真

海南市の藤白神社、有間皇子の終焉地へ



藤白神社本殿

つとの伝説があるとのこと。世界的に著名な博物学者・南方熊楠もそのご利益を授かった一人であるとの説明がありました。

孝徳天皇の第一子で有力な王位継承者でありながら、政争のため19歳の若さで命を落とした「有間皇子の変」の経緯、皇子が護送中に詠んだとされる



藤白坂をのぼる道の角、辞世の句の歌碑と有間皇子の墓と伝わる石碑が建立されています

次に向かったのが、藤白神社（海南市）です。飛鳥時代の悲運の王子・有間皇子の終焉の地として伝えられています。26期の池原さんにガイドを行っていただきました。

国の史跡に指定されている藤白神社の由緒等の説明のほか、境内にそびえる樹齢千年と伝わるご神体のクスノキの巨木「子守楠」の縁起について解説していただきました。熊野楠日命（くまのくすひのみこと）の籠る（子守る）子どもの神様として古くから信仰されてきたクスノキです。この神様から名前に「楠」「藤」「熊」の一字を授けると良い子に育



境内には樹齢千年と伝わるクスノキの巨木「子守楠」がそびえる

辞世
歌や、
皇子

を悼む長意吉麻呂（ながのおきまろ）、山上憶良（やまのうえのおくら）らの追悼歌（「万葉集」）が紹介されました。

藤白神社本殿を出て左に折れ旧熊野街道を西へ約200m、藤白坂への登り口に当たる道角の植え込みの一角に、辞世の句碑と皇子の墓と伝わる石碑が建立されています。いずれも万葉集に挽歌として掲載されています。

歌碑に刻まれた有間皇子の万葉歌を掲載します。

～有間皇子 ^{みづか}自 ^{いた}ら痛みて松が枝を結ぶ歌二種～

^{いわしろ}磐代 ^{まさき}の浜松が枝を引き結び
真幸くあらばまた還り見む
＝ 卷二一一四一

家 ^けにあれば筥 ^{いひ}に盛る飯 ^{くさまくら}を草枕
旅 ^{しひ}にしあれば椎の葉に盛る
＝ 卷二一一四二



(文と写真：27期佐藤 写真提供：20期北)